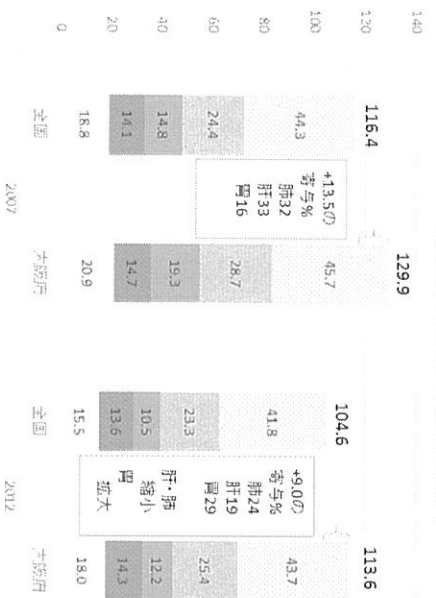
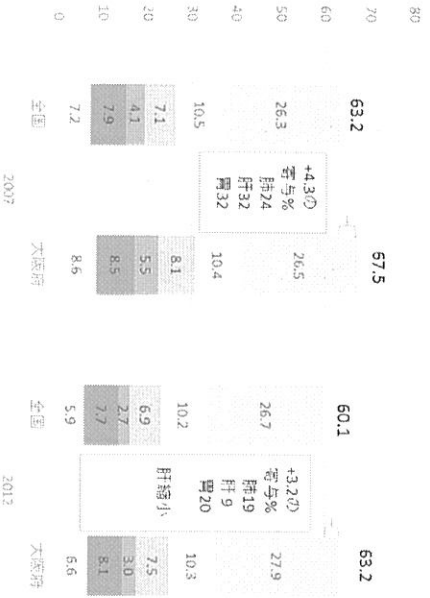


図2. 全がん年齢調整死亡率の推移、全国と大阪府の比較 (男女計、75歳未満、昭和60年モデル人口10万対)

がん年齢調整死亡率、主要部位別、75歳未満  
全国と大阪府、2007年と2012年、男性



がん年齢調整死亡率、主要部位別、75歳未満  
全国と大阪府、2007年と2012年、女性



＜大阪府がん登録資料で把握されるがんの現状＞

り患率高く、減少傾向乏しい。  
生存率は概して低い。  
喫煙率激減および受動喫煙防止  
により、肺がんのり患率を減少  
することが重要。

り患率が高い。生存率は概して  
低い。  
肝炎ウイルス検診体制を充実し、  
肝がんのり患率を減少すること  
が重要。

他府県と比べて、り患率高くない  
が、早期割合が低い。  
早期発見・早期治療が重要。

がん患者の5年生存率は、他府県と比べて低い傾  
向にある。  
がん医療の体制の充実（ニがん医療の均てん化）  
が必要。

その他  
乳癌  
肺  
胃  
大腸  
肝  
肺  
その他